インターネット利用と先端技術の社会的実装：

—JWIP (WIP 日本チーム) 調査報告から—

○氏名 遠藤 薫 Kaoru Endo

Keywords : IoT AI ロボット 社会調査 国際比較

1 目的

本研究の目的は、現在世界で急速に進んでいる IoT、AI・ロボット技術の開発、社会実装について、一般の認識、期待、予測などについて意識調査を行い、その結果を分析し、今後の技術の方向性に関する基礎的データを得ることである。

2 方法

本研究は JWIP(Japan World Internet Project)研究の一環として行われた。JWIP は WIP(World Internet Project)と連携して調査／研究を行っている。WIP はインターネット利用行動の国際比較のための研究組織であり、共通の質問文を用いて国際比較を行っている。本研究で実施した調査においては、WIP の共通質問 以外に独自の質問文も含まれるが、本報告は主として比較可能な WIP の質問の結果を中心に行う。

本報告がもとづく JWIP 調査は、日本全国 18～69 歳男女 600 (男性 302、女性 298) 人を対象としたエリアサンプリング法による訪問留置質問紙調査で、2018 年 11～12 月実施した。本報告では、報告者が実施したこれ以外の調査も適宜参照する

3 結果

調査・分析の結果、新技術への大きな期待や短期的な導入については消極的な回答が多かった。アメリカと比較すると、アメリカの方が相対的には積極的であるが、大きな違いとはいえない。また導入に際しては、さまざまな制限を設けることへの賛成が多い。詳細は本報告で述べる

4 結論

現状の日本では、メディアなどで多く取りあげられているにもかかわらず、IoT、AI やロボット技術に関する知識は薄く、評価や期待は低い。一方、産業面では、世界との競争もあり、開発や社会実装を進める動きが急である。このようにバランスを欠いた状況は、技術にとっても社会にとっても望ましいものではない。今後、一般の人々を巻き込んで幅広い議論が望まれる。詳細は本報告で述べることとする。

注：本研究は、平成 30 年度学習院大学計算機センター特別プロジェクト（「IoT、AI の時代における社会的態度形成」代表者・遠藤薫）として実施されたものの一部である。

【主要参考文献】

遠藤薫, 2018, 『ロボットが家にやってきたら・・・人間と AI の未来』岩波書店

遠藤薫, 2018, 「共生のためのサイバー・コミュニティ」横幹〈知の統合〉シリーズ編集委員会・編『ともに生きる地域コミュニティ』東京電機大学出版局

Smith, a. & Anderson, M., 2017, “Automation in Everyday Life”, Pew Research Center.

Wallach, W. & Allen, C., 2009, Moral Machines : Teaching Robots Right from Wrong., Oxford Universty Press.